

# **I R 誘致への挑戦と 今回の区域認定申請の見送りについて**

**北海道**

連絡先：観光局・榎（26-016）  
（外線）011－204－5305

# I Rの意義

ーピンチをチャンスに変える原動力ー

〔本道を取り巻く課題＝ピンチ〕

インバウンド誘致の国内競争激化

全国に比べ低調な民間投資

「稼ぐ観光」への要請の高まり

若年層の道外への転出超過

人口減少の進行による経済社会の先細り懸念

《IRの効果＝チャンス》

インバウンド・交流人口の増加  
観光消費の拡大

国内外からの  
民間投資・需要の拡大

経済の好循環

人口減少に伴う諸課題の克服

税収増による  
行政需要への積極対応

新たな雇用の創出  
U I ターンの促進

**I R = 本道のピンチをチャンスに変える大きな原動力**

# 今回の認定申請をなぜ見送るのか

## 《IRの候補地 苫小牧市・植苗地区》

【本年４月に取りまとめられた「IRに関する基本的な考え方」で優先候補地に】

- 新千歳空港から近く、多くの集客が見込まれ、IR事業者の関心も高い
- 森林に囲まれた自然豊かな場所であり、北海道らしいIRの実現可能性

希少な動植物の生息場所

ラムサール条約湿地「ウトナイ湖」の上流域

大規模開発には、環境への適切な配慮が必要

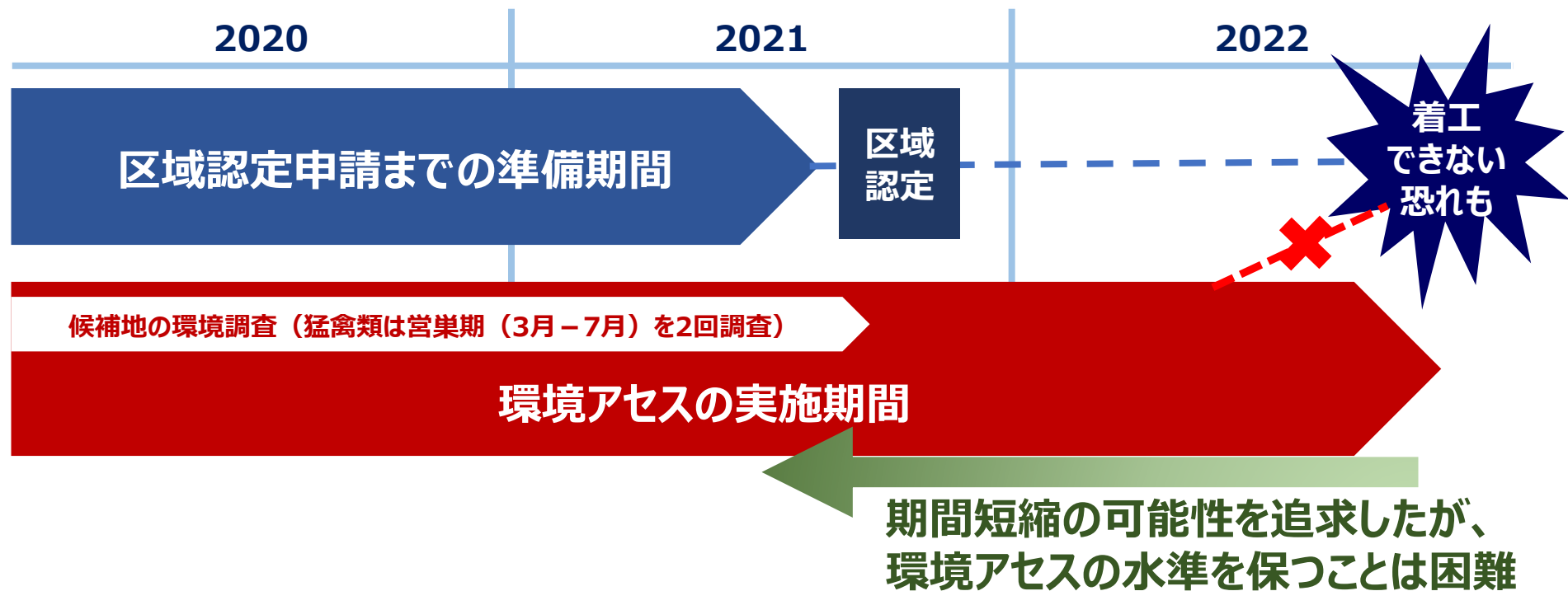
開発面積50ha以上 ⇒ 道の条例に基づく環境アセス

開発面積50ha未満 ⇒ 自主アセス（条例に基づくアセスと同水準）

\* いずれの場合も、長期間にわたる手続きが必要

# 今回の認定申請をなぜ見送るのか

- IR区域認定の申請期間は、「2021年1月～7月」に設定（政令案）
- 認定されたとしても、その後の環境アセスの状況によっては、着工できない場合も



認定後に着工できないという重大なリスクを抱えたまま、  
区域認定申請を行うことは、道民の皆様の信頼に応えられない

# 来るべき時を見据えて — I R 誘致への挑戦 ① —

## 《ターゲット・イメージ》

- 今回の認定から7年後に区域認定数について再検討 ⇨ 認定数拡大の可能性
- 最大3ヶ所が認定される今回の区域認定の動向も注視

## 《何をやるか》

- コンセプト ⇨ 実施方針の策定を見据えた北海道 I R のコンセプト再構築
- 候補地 ⇨ 現在の候補地を基本としながら、誘致の可能性を幅広く検討
- 環境配慮 ⇨ 環境アセス制度等に基づく環境配慮方策の検討
- 機運醸成 ⇨ 関係団体等と連携した I R の情報発信・理解促進
- 国への提案 ⇨ 地方型 I R の実現に向けた制度提案（規模要件等）



# 来るべき時を見据えて — I R 誘致への挑戦 ② —

北海道・札幌オリンピック・  
パラリンピック冬季競技大会招致  
(2030年)



民族共生象徴空間（ウポポイ）  
(2020年4月)



北海道新幹線札幌延伸  
(2030年度末まで)



今後展開される  
主要プロジェクトと  
IRとの結びつきを高め、  
全道に効果を波及

道内7空港一括民間委託  
(2020年1月～)



日本ハムファイターズ  
ボールパーク構想 (2023年～)

